平成２７年を振り返って

平成２７年１２月２８日（月）

茨城県立鬼怒商業高等学校　教頭　宇都木　直之

教頭便り

平成２７年も残すところあと４日となりました。授業に，部活動に，検定試験にと生徒たちはこの１年頑張ってきました。部活動の主な成果についてまとめてみます。

全国大会出場

ライフル射撃部　ＡＲ４０　安田那奏美（大和中）
簿記部　団体の部
　　　　個人の部　池羽舞果（下館西中）
全商高校英語スピーチコンテストレシテーションの部　コミヤマサイチ（結城東中）

関東大会出場

ライフル射撃部　ＢＲ４０　飯村あゆみ（下館南中）関東大会では７位入賞
　　　　　　　　　　　　　広瀬晴菜（下館西中）
　　　　　　　　ＡＲ４０　安田那奏美（大和中）
陸上部　三段跳び　玉城まゆみ（結城中）

これ以外にもたくさんの部が県大会に出場しています。その中でも今年特に顕著だったのは野球部の活躍です。夏の県大会では実に４回勝ち抜き５回戦に進出しました。あと３回勝てば甲子園だったのですから大躍進です。３８年振りのＢＥＳＴ８と茨城新聞でも取り上げられ，昭和５２年にあの木内幸男監督率いる取手二高を相手に，延長１８回引き分け再試合を一人で投げ抜いた梅沢義勝投手のことを思い出された方も多かったのではないでしょうか。

茨城新聞

鬼怒商、38年前の死闘

高校野球100年

梅沢、一人で投げ抜く

延長十八回引き分け再試合

鬼怒商は前回ベスト8に進出した38年前、延長十八回引き分け再試合の死闘を繰り広げている。1977（昭和52）年の第59回大会準々決勝、県営球場で行われた取手二戦だ。

取手二を率いるのは木内幸男。この時、まだ春夏とも甲子園出場経験はない。鬼怒商のエースは本格派右腕・梅沢義勝。試合は投手戦となり、両チーム無得点で迎えた七回表、鬼怒商が1点を先制。すると取手二もその裏すかさず同点とした。その後延長十、十一、十五回に鬼怒商が1点を勝ち越すと、すぐに取手二が追い付く展開が続き、4―4で十八回引き分け再試合となった。

茨城大会でこれまでに延長十八回を戦ったのはこの試合だけ。投手が細かく継投した取手二に対し、鬼怒商は梅沢が一人でマウンドを守り抜いた。

梅沢は再試合にも先発。しかし疲労からか序盤と終盤に失点し0―8で大敗。取手二はこの後、準決勝で鉾田一を3―1、決勝で土浦日大を3―2で下し初優勝。初出場した甲子園でも1回戦で掛川西（静岡）を4―1で破って1勝を挙げた。名将・木内の甲子園伝説はここから始まった。

鬼怒商の梅沢はこの年、ドラフトでロッテに2位指名され入団。主に中継ぎ、ストッパーとして活躍。その後ヤクルトに移籍し、88年に現役引退した。通算244試合、17勝14敗22セーブ。

◆1977年第59回茨城大会準々決勝

鬼怒商	000000100110001000	4
取手二	000000100110001000	4

（延長十八回引き分け）

38年前の鬼怒商のエース梅沢義勝

野球の興奮もつかの間，９月１０日（木）には台風１８号のもたらした田川の逆流による校舎１階・グラウンド水没の被害を受けました。県内・全国の多くの方々から本当に温かいお心遣いをいただきまして重ね重ね御礼申し上げます。特に大阪府立泉洋高校の皆様，そして磯原郷英高校ふたば会の皆様ありがとうございました。また，この水害に際しまして，元プロ野球選手（巨人・横浜）の仁志敏久氏から金属バットやボール等をいただきました。（記事は毎日新聞）辛い毎日の中，一生忘れられない出来事でした。

H.27 10/23 毎日

鬼怒商/石下紫峰/水海道二/水海道一

被災4校に野球道具

元プロ野球選手 仁志敏久さんが寄贈

元プロ野球選手、仁志敏久さん(44)が22日、関東・東北豪雨で被災した県立高4校の野球部を訪れ、バットとボールを寄贈した。古河市出身の仁志さんは「県西地区の被害は自分にとって身近なこと。野球人として、被災者に希望を与えてほしい」と話した。【玉腰美那子】

仁志さんは地元の知人や報道から被害を知り、寄贈品を集めた。この日、浸水被害のあった鬼怒商▽石下紫峰▽水海道二▽避難所になっていた水海道一の計4校を訪問し、それぞれ金属バット5本とボール240個、校名が刺しゅうされたボールケースを寄贈した。

校舎が約2㍍浸水した鬼怒商は、道具を保管していたグラウンドの物置や部室も冠水した。選手のグラブやスパイクが使えなくなったほか、38年ぶりに8強入りを果たした今夏の県大会の集合写真も水につかり、小室寛人主将(2年)は「どうなっているのかよく分からなかった」とあぜんとしたという。秋の大会は県大会1回戦で敗退した。

鬼怒商グラウンドで仁志さんは「これくらいで支援したとは言えない」としつつ「来年に向けて頑張ってください。期待しています」とエールを送った。受け取った小室主将は「大切に使って、来年の夏にもう一度8強入りを目指したい」と話した。

仁志さんは常総学院時代、3年連続で夏の甲子園に出場。早大、日本生命を経て1995年のドラフト2位（逆指名）で巨人に入団し、2006年に横浜に移籍した。10年に米独立リーグで現役引退し、筑波大大学院で野球の指導論を学んだ。

小室寛人主将にバットを手渡す仁志敏久さん（左）＝結城市小森の県立鬼怒商業高校で

また今年は，年間を通じて中学校への出前授業にたくさん出かけていくことができました。（写真は結城東中でのマーケティングの授業）下妻東部中（6/19）桜川中（7/24）下館南中（9/2）大和中（9/28）岩瀬東中（9/29）八千代東中（10/2）下館西中（10/9）協和中（10/16）明野中（11/10）結城東中３年生（11/12）２年生（11/27）千代川中（12/3）下館北中（12/10）結城中（12/11）の校長先生始め受け入れてくださった担当・学年の先生方，本当にありがとうございました。来年も今年以上にお役に立てますよう内容や技を磨いていきたいと思っておりますので，よろしくお願いいたします。

１２月１３日～１６日，本校２学年生徒・職員と共に沖縄修学旅行に行ってきました。天気はほぼ曇りでしたが，マリンスポーツや民家での宿泊体験など，一人の病人・怪我人や事故もなく私も含めて全員が「一緒に行って良かった」旅行をやり切ることができ，幸せな時間となりました。

今年も色々な出来事がありましたが，どれもこれも私たち「チーム鬼怒商」のメンバーに取って貴重な瞬間であったと思います。来年も益々希望に満ちた一年となるよう精進していきたいと思っておりますのでどうかご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。